令和８年度　第１回 松江市生活環境保全審議会　会議録

1　日時　令和８年９月 29 日（火）10:00～11:30

2　場所　松江市役所４階北エリア　会議室４、５

3　出席者

(1)委員７名

桑原委員、佐藤委員、田中委員、永江委員、松本委員、矢田委員、山口委員

欠席者３名

安野委員、岩田委員、森山委員

(2)事務局 11 名

上定市長、山田環境エネルギー部長、古藤環境エネルギー部次長、糸川環境対策課長、中島環境施設課長、石倉リサイクル都市推進課長、松原廃棄物対策係長、成瀬総括主幹、永野主幹、小川副主任、吉田主任主事

4　次第

1．開会

2．市長あいさつ

3．諮問

松江市一般廃棄物処理基本計画の策定について

4．議事

(1) 松江市一般廃棄物処理基本計画の概要について‥‥資料１、2

(2) 審議会開催スケジュール　‥‥資料３

5．閉会

5　会議経過　別記のとおり

6　事務局　松江市環境エネルギー部環境対策課

1. 開会

〇糸川環境対策課長

ただ今より、令和 8 年度第 1 回松江市生活環境保全審議会を開催します。本日、議事に入るまでの進行役を務めさせていただきます、松江市環境エネルギー部環境対策課の糸川です。この委員会は、松江市情報公開条例及び審議会等の公開に関する要綱の規定により、すべて公開で行います。また、会議録を作成するために録音機を使用させていただきますのでご承知おきください。議事整理及び録音の都合上、発言は挙手をいただきマイクを使用してご発言くださいますようお願いします。本日の会議は、概ね午前 11 時 30 分を終了予定時刻としております。円滑な進行にご協力をお願いします。それでは開会にあたり、上定松江市長より挨拶を申し上げます。

2. 市長あいさつ

〇上定市長

みなさんおはようございます。本年度第 1 回目となります、松江市生活環境保全審議会に大変お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。また、この審議会に関わらず、日頃より松江市の生活環境の保全あるいは廃棄物処理の適正化にご助言ご指導、また、ご支援ご協力いただいておりますことに心より感謝を申し上げます。松江市として持続可能な循環型社会の形成に力強く取組んでいきたいというふうに思っておりまして、いろいろな施策を実施させていただいております。その一環として、廃棄物処理法に基づく一般廃棄物処理基本計画を従来から策定しております。平成 29 年の 3 月に策定し、期間を 10 年として運用している現行の計画がございまして、これが今年度末、令和 9 年 3 月をもって計画期間の満了期を迎えます。令和 3 年に中間期の見直しを一度図っておりまして、その計画の実践に向けてアップデートはしながらやってきているものの、やはりこの 10 年で大きく世の中が変化したという事情もございまして、今回新たに、来年度から始まる一般廃棄物処理基本計画の策定について、本審議会に諮問をさせていただこうと考えております。この 10 年で何が変わったかと考えると、当然人口が減ってきたという日本の経済社会にとって今まで経験したことのない状況が生じました。また、コロナウィルスの流行や自然災害が頻発化、激甚化してるといった状況もあります。それにまた、個別の廃棄物の事情として考えると、市民のみなさんのリサイクルやリユースに対する意識というのはずいぶん変わってきています。例えば、プラスチックごみは減っておりまして、松江市もごみ発電施設持っておりますけれども、プラスチックごみがないと燃焼効率が悪いんです。なので、燃焼剤を放り込んでやらなきゃいけないとか、あるいはカーボンニュートラルという言葉が 10 年前はまだ確立しておりませんでした。松江市も脱炭素先行地域に選定されまして、脱炭素の取組みを能動的に進めております。そういった社会環境の変化が、非常に際立った 10 年であるというふうに振り返っているところでございまして、新しい計画を立てるに当たっては、今までのものをベースとしながらではありますが、より実態に近い且つ実効性の高い計画を策定していかなければというふうに思っているところでございます。松江市として、持続可能な循環型社会の構築に向けた一般廃棄物の処理の基本計画ということで、ごみの量の削減あるいはその資源の循環等について織り込んだ形で、この豊かな生活環境を保全し、また発展させ、それを次世代に引き継ぐということを一つ大きな命題において、この計画の策定に入っていきたいというふうに思っております。皆さま方におかれましては、それぞれのお立場からの専門的な見地、また、市民のお一人として、生活者として皆さまの実態に即した形の計画にしていきたいと思っておりますので、今日の審議会でも忌憚のないご意見をいただければと思っております。本日、この後諮問をさせていただいた

後に私は退席いたしますが、素案をお示しさせていただきまして、早速議論に入っていただければと思っております。皆さまと活発な議論ができますことを期待いたしまして、私の開会のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

〇糸川環境対策課長
　今年度より一部委員の交代がございましたので紹介します。松江商工会議所からお出かけいただいておりました坂本委員に代わり、田中裕一郎委員に今年度から就任いただいていますので、ご紹介します。
　それでは、ここで会議の成立についてご報告します。当審議会の会議開催につきましては、「松江市の生活環境の保全に関する条例」第 27 条により委員の半数以上の出席が求められています。本日は、委員 10 名中 7 名が出席ですので、会議の開催について成立していることを報告します。

3. 諮問
〇糸川環境対策課長
　それでは、上定市長より当審議会宛てに諮問です。上定市長、松本会長、前の方にお願いします。

＜上定市長より諮問文読み上げ後、諮問文を審議会会長に手交＞

〇糸川環境対策課長
　それでは、一旦会議を休憩とします。なお、市長はこのあと別の公務がありますので、退席いたします。
　先ほど諮問がありましたので、早速ですが、審議に入りたいと思います。審議の議事の進行については、松本会長にお願いしたいと思います。

〇松本会長
　本日が審議会第 1 回目ということで、一言申し上げます。10 年前に松江市一般廃棄物処理基本計画に携わりました。それ以前も一委員として携わっていましたが、前回は会長としてこの案をまとめました。その時から比べて世界の状況、先ほど上定市長が申されていましたが、本当に劇的に変化しています。それは、環境、廃棄物だけではなくて、世界の平和、人権、争い、コロナウィルス、様々な世界情勢、経済も非常に大きく変わってきています。今もそれは続いていますが、一般廃棄物処理に関しては、松江市の中でも大きく変わっています。事前に皆さま方に資料をお目通しいただいていると思いますが、年々プラスチックをはじめ廃棄物の量が減っているという状況を目前にして、10 年前こういうことが想像できたでしょうか。
　その一方で、地球環境に関しては注視しなくてはいけないことが多くて、世界のトップリーダーの中には、気候変動、地球温暖化はさほどでもないという方もおられます。多様な意見の中で注目されるべきは、世界中の国の下にある市町村、この市町村レベルが市民一人一人とつながっているので、ここでの審議、そして実行計画とかこの基本計画が日本政府に届く、しかも松江市は島根県の県庁所在地にあり政令指定都市に準ずる中核市に指定されていますから、非常に重い重責を、私たちはそれぞれの市民の立場、企業の立場、大学の立場から担っていると思っています。
　本日、早速審議に移りますが、冒頭一言だけ、廃棄物の排出という状況においては、それほど注視

するところがないように思われるかもしれませんが、この先様々なことが起こり得る、そして環境に対しても市民に広く意識啓発、行動変容を促したいと思いますので、新たな田中委員もおられますので、よろしくお願いします。

それでは、議事に入ります。円滑な議事進行にご協力いただきながら、活発な議論をお願いします。事務局より本日の会議資料について確認をお願いします。

〇糸川環境対策課長

この会議については、基本的にはペーパーレスで実施します。資料については、事前にメールでお送りしたものをお使いください。松江市のホームページにも後日アップします。なお、事前に配布した資料について一部修正があり、紙でお配りした基本計画素案の 62 ページ部分、網掛け部分を追記していますので、事前にお配りした資料と差し替えをお願いします。お配りしている資料については、本日の次第、委員名簿、差し替え資料です。資料 1、松江市一般廃棄物処理基本計画（素案)。資料 2、松江市一般廃棄物処理基本計画（概要)。資料 3、松江市一般廃棄物処理基本計画策定スケジュールをお示しします。画面の方にも映し出しますし、それぞれに配置しているタブレットでもご覧いただけますのでご利用ください。説明は以上です。

〇松本会長

それでは、議題(1)、松江市一般廃棄物処理基本計画の概要についてを事務局より説明をお願いします。

4. 議事

〇松原廃棄物対策係長

＜資料により議事（１)、（２）について説明＞

〇松本会長

それでは、ただ今事務局に説明いただきましたが、ご意見ご質問がありましたら発言をお願いします。

〇佐藤副会長

廃棄物の基本計画については、減少傾向が続くということですが、非常災害時対応ということで明確化と謳ってあるが、一般の状況については減少傾向ということで計画できると思うけれども、これだけ一緒に災害が起こってくると、災害時のキャパの余裕をどう組み込むかというのが、非常に重要じゃないかと思っていまして、ご説明いただけるところがあれば少しご説明いただきたいと思います。

〇松本会長

災害廃棄物の対応だと思いますが、お願いします。

〇松原廃棄物対策係長

今回策定する「一般廃棄物処理基本計画」には、災害廃棄物対策の具体的な内容は記載していませ

ん。その理由は、昨年度に別途「災害廃棄物処理計画」を策定しているためです。
災害時には一時に大量のごみが発生するため、昨年度策定した「災害廃棄物処理計画」の中では、仮置場の設置や、市外の自治体・業者への処分協力体制などを具体的に定めています。この計画により、大規模な地震が発生した場合でも、概ね3年以内にはごみ処理を完了できるロードマップを構築しています。
なお、国の法律改正に伴い、今回の「一般廃棄物処理基本計画」の中にも災害廃棄物対策を位置づけることになりましたが、具体的な処理の運用については「災害廃棄物処理計画」の内容をそのまま適用する形を取っているため、本計画の中に詳細な記述は行っていません。

〇松本会長
災害廃棄物については、国全体の施策があって、この計画の中でもそれを参照するようなやり方で進めようということですね。私からもそれが簡単に参照できるように、この中にもこういう政策を取ってるんだと明確に目立つように書いておけばいいのではないかと思いました。他の委員のみなさんいかがですか。

〇田中委員
田中でございます。初心者なので大変勉強になりました。重要かどうかというよりもかっこよくなるかなと思う部分で、2036年までの長期計画なので、特に事業ごみの削減目標でいうと、例えばイオングループとかセブンイレブンなどの大手企業の廃棄物削減、食品ロスの削減は、決算書ベースで見ても20%とか25%という数字で既に削減されている状態で、松江市の目標値は他の自治体と比べて頑張ってますよという意味ではいいかもしれないけど、おっと言わせる計画にするにはちょっと大きく盛ってもいいのではないかと感じました。ちなみに、日本では20%とか25%という数字で大手企業がやっていますが、アメリカのウォルマートを見ると、もっと巨大な額の食品ロス削減をしているので、そういった面で言うと企業の自助努力によって削減する、彼らにとっては利益直結の食品ロス削減なので、それに乗って松江市の計画が策定できると、目標値ももう少し大きくできるのではないかと感じました。

〇松本会長
ただ今のはご意見ということで、第2回目で反映できるかどうかを検討してもらえればと思います。アメリカのウォルマートもそうですし、昨年私が行ったドイツだとか、リサイクル率結構高くて、それはこの委員会が目指す市民の意識を上げる。ある部分はリサイクル率、平成27年か8年は30%近かったです。29.4%までいって、おっと思っていたら今25%切る段階なので、この意識の部分が上がるかなと。組成分析は手伝ったことがありますが、大変な努力なんです。とても臭くて「おしめ」とか「おむつ」とかも夏にやると大変な状況でした。組成分析も続けながら意識を上げるような何か打って出たらいいかなという感想です。

〇永江委員
永江と申します。先ほどの意見として取っていただければと思いますが、二つ言わせていただきます。今の松江市も人数が減ってきているということで、それに伴ってでもありますが、私女性として料理を作る立場で言わせていただくと、プラスチックごみが減っているということで、くにびき女性

部としては料理を作りましょうということで、それが普通かなと思っていろいろなデータとかアンケートを聞かせてもらって、私は作る方なのですが、今若い方とかお年寄りとかは、出来合い物を買われています。そうすると、プラスチック等の入れ物容器とか、トレーの入れ物とか出しに行くんですけど、A コープとかのスーパーに行くと、入り口にトレー等の資源ごみを入れるところがすぐに一杯になる状態で、それほど出来た物を買われる方が多いのかなと思います。そういうものが増えていく一方、プラスチックごみを利用する方が減っているのかなと思いました。排水処理施設関係ですが、私の住んでいるところは過疎化というか人口が少ないところです。松江市と合併する前に、トイレを換える場合には補助金が出て、それを利用できましたが、今はそれが出ないので、知り合いの中には、一人世帯で汲み取りしかないからそういう施設はいらないと言う人もおられるし、中には補助金が出る時にしてたらよかったけど、トイレを作るのに何百万かかったりするので、そんなお金はないと言う方もおられたので、94%98%の残りの 2%とか 4%近くあったと思うけれども、そういう方が進めていけるような検討をされてはどうかと思いました。

○松本会長

大変貴重な意見だと思います。ごみの排出量で全国平均から見ると松江市は高いです。都会の部分が入っているので、都会は周りにファミレスとかいろいろなものがあるので、そこで食べたりということが多くて、島根県の平均よりも松江市は悪いですが、要するに家庭で料理をして出るごみが多いことだとか、1 軒家だと庭の周りのごみが多いと思います。現状分析ですが、リサイクル率は依然高いので、総量も減らしていかないといけないし、ウェルビーイングという意味では、お料理作って健康になることは大事で、最後に言おうと思っていたけれど、生き生きとウェルビーイングというのが SDGs のポスト、SDGs の目標の一つになっている。ごみを減量するということだけではなくて、料理を作って出るものは出るのだけれど、それを少なくしていこうというウェルビーイングの部分について、何かアピールできるものがあればいいかなと思います。他の委員のみなさんいかがですか。

○桑原委員

桑原です。全体の量からするとわずかかもしれないが、宍道湖は水草が例年繁茂します。ただ今年はなぜか少なくて、渇水気味で塩分が通常の 3 倍ぐらい高かったことが影響したのかもしれないが、少なくてあまり取れませんでしたけど、水草も今までは処分をしていましたが、有効利用の話も広がってきていて、アースサポートと連携して燃料にしたりとか、飼料に利用できたりとか、少しでもごみの削減につながるということで、多く活用できたら、水草だけに限らず、今までは捨てていたものがまだ利用できるもの、リサイクル可能なものがあるということで紹介されたが、いろいろな分野で新たに活用できるといいのかなと感じました。併せて、海洋ごみの削減も新しいところでやっていくことが資料の中にもあったので、どういう内容か伺いたいと思います。

○松本会長

矢田委員と山口委員、矢田委員から順番にお願いします。

○矢田委員

矢田でございます。私は二点ほどお願いというか聞きたいですが、ごみの量ですね。現状の評価のところで、松江市が非常に数字が多いとか、本編にも記入がなくて。なぜ多いのかと疑問に思うこと

が1点目、それから、自治会連合会から出させていただいて、P22のところの地域社会の対応ということで、自治会加入状況に左右されない集積所利用の仕組みづくりをお願いできれば。最近自治会加入が低下しつつあり、基本的にはごみ集積所は自治会でやっていますし、地域によっては自治会加入していない人はごみを入れるなという地域もあって、その辺が問題はあると思いますが、これからどういう形で仕組みを作っていかれるのか、自治会加入を条件にする、条件じゃないがごみを捨ててもいいよというとまた問題もあるでしょうし、処理集積所の管理を自治会がほとんどやってると思いますが、やり方をどういうふうにやるのかもこの本編の中にも無かったので、明確にするといいかなという気がしました。

〇松本会長

山口委員に行く前に、自治会との連携は大事です。リサイクルステーションが大学の中にもありますが、いろいろな人が島根大学の中で缶、ビン、ペットボトルを捨ててもいいよって案内出してますが伝わらなくて、松江市には大学生も多いので教育をなんとかしなくてはと思っていたところです。山口委員お願いします。

〇山口委員

山口です。僕自身勉強になりましたし、学生にもリサイクルとか1年生に対して授業もしてるのですが、2点ほど冒頭の方でSDGsから始まっているんですけども、2030で終わってしまうので、次改定するのは5年後で合っていますか。そうすると終わった状態での2年間があるので、そこのところがどうなるのかというのが気になった点が一つと、出張講座を「小4を軸に」と書いてあったと思いますが、分別リサイクルについては文字が読めなくても保育所とか小学校1年生でもできますし、よくうちの子どもも物を作ったり小学校でしてるので、家に帰って分別するのをやってるので、子どもたちが知ると親御さんが、大学生、高専、高校も大事ですが、小さい子が親に言うのが一番大きいと思いますので、若いうちからそういったことをしていくといいかなと感じました。

〇松本委員

一つ目は私からお答えします。SDGsはあと4年半ですが、その次の策定も動いています。SDGsがそうだったようにSDGsはその前任者のMDGsの課題を受けて全世界的に始まりました。次の策定が今国連で私も関わっていますが協議中です。キーワードはもうリンクされてますが、ウェルビーイングというキーワードです。なのでSDGsパートⅡとか、帰ってきたSDGsという名称ではありませんが、今取組んでいる17の目標がどう引き継がれるかは別にして、続いていくということで間違いありません。二つ目はこうなって欲しいということだったと思うので検討をお願いします。これで全員話したのですが、聞きながら追加したいとか、何かありますか。田中委員お願いします。

〇田中委員

さっきの話に近いことだと思いますが、どんどんAI化されていく時代で、それこそ分別、市民とか企業に教育やお願い、指導というのは非常に大事だと思う一方で、ごみの分別自動化というのは近い将来見えている部分で、これは自治体サービスとして、うちの自治体はごみをポンと捨ててもらったら全部自動で分別できますよというのは、先にやった者勝ちな部分かなと思うので、予算が取れるかどうかの問題だと思いますが、そういった面で目標が低いと感じました。

○松本委員
　おそらく近い将来か遠い将来かわからないけれど、こうなったらいいなというドラえもん的な発想です。今 AI がかなり進化していて。

○田中委員
　今はもうドラえもんじゃなく、実現しているので、一例として。あとは自動分別を導入するかというレベルの話です。

○松本委員
　政財界や学術界でも AI との付き合い方について話題になるところであり、我々も置いていかれないようにと思いました。最後かもしれませんが、基本計画、私前回も携わっているのと島根県環境総合計画も私会長なんです。松江市の上下水道局の水資源についても委員長か会長かやっていて、その部分では県と市、市の中での施策を私の目から整合的に見ているので、この部分は県や市の事務局のみなさんと相談して、整合性保ってると思います。もう一つは、基本理念の取組みの柱ということで「世界に誇れる環境主都松江」これはこれでいいと思いますが、総量の問題があるので、リサイクル率ができれば私の気持ちとしては、30%近かったのにという思いがあって、今目標値が 25%切るぐらいなので、24,8%を 25%にしてしまうとか、計算上のことかもしれませんが思いました。あとプラスチック資源循環法だとかリチウムイオンバッテリーの話だとか、新しいものが次々に出てきているのと、先ほど佐藤委員が言われた災害廃棄物ですね、今年 10 月に隣の鳥取県でぼうさいこくたい（防災推進国民大会）があります。内閣府が主催し日本全国からたくさんの人が集まります。企業、大学やボランティア団体等すさまじい数です。もうホテルが取れないです。鳥取市や米子市からシャトルバス出すような状況で、僕たちも出展するのですが、千葉とか北陸ですごい災害があって地震災害を想定していますが、水害だけはどこで起こってもおかしくないです。出雲地域で松江市もくくるとしたら雲出ずる国なので、雲が発生するというのは、線状降水帯を含めて豪雨災害の危険性はあると思いますので、その部分の取組みというのも、災害廃棄物なんですが、向こうで決めてます、そちらと連携するという一言ではなくて、もう少し膨らませて何かイラストが入るといいなと感じました。私からは以上ですが、もう 1 点だけ、情報発信の工夫です。若い人は SNS とか AI、最近は検索というより声で何々知りたいと言ったら提案までしてくれるし忖度もしてくれます。AI 同士競わせたり、AI で作った文章かどうかもわかりますし、そういう AI との付き合い方、うまい付き合い方もみんなで勉強していけたらと思いました。私は以上ですが、基本的には今回の計画というのは、大筋は変わらずに細かな数値目標、それが低いか高いかというのを委員のみなさんからご意見がありましたが、組成分析を重ねながら、数値目標ですね、原単位分析ということを打ち出してきたので、非常にその部分は進化してるかなと思いました。みなさん他何かご意見があれば。

○永江委員
　私の立場として、くにびき地区本部の女性部の副部長としてこちらに出させていただいていますが、今、くにびき地区本部の女性部員が 800 名おります。その中で出前講座とかあったのですが、女性部でもごみ施設へ見学に行ったり、料理の話も出ましたが、こめ油というのが今流行ってまして、この間も料理教室で勉強させてもらいましたが、松本会長から健康であることが一番だという発言

があったのですが、その中で勉強させてもらったのが、こめ油と言うのは環境にも優しく、料理する時に換気扇も汚さないし、ガスコンロも汚さないということも聞きまして、買う時にみなさん気になられるのが「コレステロールゼロ」って書いてあるのですが、これは当たり前だと言われました。どの油もコレステロールゼロと言われまして、それは企業で売ってやろうという気持ちがあるそうでして、本来はこめ油は全部コレステロールゼロと言われました。そういうことも女性部では勉強させてもらっていて、ご提案があったことも、女性部 800 人いますし、島根町以外は女性部が組織できていますので、女性と言ったらよくしゃべるので、口コミで広げられるので、女性部で協力できれば、女性部を利用していただければと思って発言させていただきました。

〇松本会長

日本はジェンダー不平等で OECD 加盟国の中で 119 位です。今問題にしている一般廃棄物のごみを出すところも女性がカギを握っている。これではいけなくて、男性も女性と一緒にジェンダーフリーで取り組むべきではないでしょうか。例えば我が家では、家事や洗い物は私の役目だし、ごみを出すのも私の役目なんです。言いたかったのはジェンダーの問題は SDGs の中にも課題としてありますが、私たち男性もっと頑張れと自分にも言い聞かせております。なので、女性部を利用してとありましたが、女性部と手を携えながら取り組むべきということは感じました。最後に佐藤委員どうぞ。

〇佐藤副会長

ごみの減量化については処遇する方法様々あると思いますが、今までの技術が AI が導入されて飛躍的に向上すると思っていまして、そういった取組みで今日議題になっている 4R ですとか、分別ですとか、適正な処理方法の仕分けみたいなところが、ここ 10 年ぐらいでかなり劇的に変わってくるのではないかと感じていまして、大枠はこれで 10 年ぐらいのところを決めるにしても、細かいところは相当手を入れていくというのが、これからの作業じゃないかなと思っておりますので、やはり現場の生の声、様々な知見を取り入れていただくようにお願いしたいと思っております。

〇松本会長

佐藤委員はまつえ環境市民会議という市民団体の代表をお勤めです。なので、女性部と市民活動の代表であるまつえ環境市民会議の会長の佐藤委員がおられるというのは大きな意味があって、その代表から何か発言がないかと思って当てたのが意図でした。松江市環境基本計画の中には、まつえ環境市民会議との連携を謳っていたので、この中にも参照いただけたらと思います。それでは本日の議事は以上になりますのでここまでとし、松江市一般廃棄物処理基本計画について次回以降も策定スケジュールに従って議論を深めていきたいと思います。進行を事務局にお返しします。

(5)閉会

〇糸川環境対策課長

松本会長ありがとうございました。皆さま方からもたくさんのご意見頂戴しました。先ほどお示ししましたスケジュールの通り、この会議を進めさせていただきたいと思いますが、本日いただいたご意見も踏まえ、次回のところで打ち返しということを準備したいと考えております。それでは、閉会としますが、閉会に当たり山田環境エネルギー部長より一言ご挨拶を申し上げます。

○山田環境エネルギー部長

それでは、本日は大変お忙しい中、貴重なご意見もいただきまして第1回審議会を無事に終わらせていただきました。松本会長が言われましたように、前回の時と前々回とこの計画はずっと携わらせていただいておりました。行政で働いておりますと考え方が硬直化してきますが、今日いろいろと皆様方からご意見もいただいておりますので、少しでも前進できる形で、柔軟な思いで計画に反映できればというふうに思ったところでございます。前回の6月議会とか、直近の議会のところでも、先ほども矢田さんの方からありましたように、自治会の取扱いの問題というのは今クローズアップされておりまして、松江市も以前と比較すると自治会加入率が大変低くなっていると、非常に世知辛い世の中になってしまったのかなと、都市型になってしまったというような状況なんですけれど、議会質問のところでも、自治会加入をしていないと集積所を活用できないというようなこともあって、とは言っても個別収集が増えてしまうことになると、効率性の問題も抱えております。誰もがウィンウィンでできるような形が本当にできればなということで模索中ではございますので、またいろいろとご意見をいただきながら、この計画に反映できる部分もあるのではないかなと思っていますし、それから、松江市では平成23年にエコクリーン松江というガス化溶融炉で燃やせるごみを処分する仕組みをスタートしまして、これが令和7年度に前半の15年を終えて、今年度令和8年度から折り返しの15年、令和22年まで継続するために、基幹改良工事を今年度から向こう概ね5年間かけて行いながら、そして運営の委託については、引き続き15年間の長期包括運営委託を行っております。以前の計画のところでも実際に画期的な処理の仕組みだったものですから、燃やせるごみとか、それからお茶碗だとか靴だとか、たいがいの今まで埋め立てをしていたごみが燃やせるごみで処理できるというようなことがありまして、一時なんでも燃やせる施設なんだという意識が入ってしまいまして、これをなんとか払拭するためにごみの減量化、それから資源化できるものは資源化しましょうということをずっと言い続けてはおりますが、今まできちんとご協力をしていただいている市民のみなさん大変多いんですけれども、なかなかリサイクル率も上がっていかないというような状況があります。松江市も古紙とかが実態は重量ベースで搬入をされますので、結果的に古紙というのが一番その資源化の中で大変重要なウエイトを占めておりますけれども、どうしてもデジタル化という観点で、私まだ新聞紙取ってますけど、世の中だんだんデジタルで新聞も取っておられない家庭もどんどん増えたり、それから、本もデジタル化で書籍を買う方も少なくなったというようなこともあって、そういった状況も実際あるだろうなというふうには思ってます。いろいろなものもプラスチックも素材もだんだん変化をして、軽く軽量化というところもあるんですけども、如何せん日本自体は資源がない国ですので、限りある資源を有効に活用しようというのはもともと国の方策でやってますので、松江市としても引き続き資源化できるものは資源化をしていただいて、なおかつごみの減量化も図りながら、そして、今日僕は田中さんにちょっと言われて新たな技術の活用というAIも含めて、そういったことも少しどこまでできるのかなというところありますけれども、チャレンジ精神というのは持っておかないといけないかなということで、ちょっとハッとさせていただきましたので、第2回が10月の下旬ということでございますので、皆様の今日の意見を反映もしながら、次の審議会に向かわせていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

○糸川環境対策課長

最後に事務連絡です。意見の中にありました松江市災害廃棄物処理計画については、現在松江市のホームページに掲載しております。お送りしますので、参照いただければと思います。本日は短い時

間の中たくさんご意見いただきました。資料等も多い中、説明が十分でなかった部分もあったかと思います。また、お送りさせていただいた資料をご覧いただきまして、追加で質問、意見等ございましたら、来週末 10 月 9 日金曜日を目途に環境対策課にお送りいただけますと、その内容に対して打ち返しの準備をさせていただきたく思います。送付方法については、後ほどご案内申し上げます。次回審議会については 10 月下旬か 11 月上旬になろうかと思います。皆さまのスケジュール調整させていただきますので、よろしくお願いします。以上で令和 8 年度第 1 回松江市生活環境保全審議会を閉会します。本日はご出席いただきありがとうございました。引き続きよろしくお願いします。